



第151期救急科を実施しました

[期 間] 令和5年10月13日（金）から12月1日（金）まで
34日間

[会 場] 埼玉県消防学校
所属消防本部（局）

[到達目標] 救急医学に関する基礎知識に基づき、応急処置時における的確な
観察・判断能力、応急処置に必要な専門的スキルを修得し、救急隊
員として活動できる。

[教育対象] 救急業務に従事させようとする者（日赤救急員の有資格者、初任
教育救急講習修了者又はこれらと同等以上の知識技能を有する者）

[修了者] 25消防本部（局）85名
平均年齢25.2歳

修了しての感想

救急科を修了して一番の感想は、救急に関することに興味を持ちはじめたこと、学んだことを活かして救急隊として現場で活動してみたいと感じたことです。このようなことが思えたのは、消防学校の専科教官、座学に来ていただいた講師の方々、実技教官の方々のおかげです。

座学では難しい内容も多く、最初は不安を感じましたが、講師の方々に丁寧に、わかりやすく教えていただき、新しいことを学ぶ楽しさに変わっていきました。実技に入ると座学で学んだことが少しずつ活動につながっていくことを感じました。また、実技は分隊での活動になるので、日々チームワークが向上していくことに更に楽しみを感じることができました。現場を想定したシミュレーション訓練や最後の想定訓練では、できた部分もありますが、反省点も多く「もっと学ばなくては」という気持ちになりました。

所属に戻っても救急科で学んだことを基に、知識や技術を高めて、市民、傷病者のために活動していきたいと思えます。



後輩へのメッセージ

救急科は現場で活動する上で重要な知識と技術を数多く学ぶことができます。消防隊、救助隊、救急隊、指揮隊等々数多くの隊がありますが、全員が知っておくべき内容がたくさん講義や実技訓練の中にあります。市民のため、傷病者のために是非入校してみてください。

修了しての感想

救急科に入校することにあたり、私たち学生に学びやすい環境をつくってくださった担当教官、講師の方々に感謝の気持ちでいっぱいです。いつも学生のことを気にかけてくださり、何不自由なく勉強に打ち込むことができました。

座学・実技を通じて、「救急隊は一つのチームだ。」とよく教官たちが口を揃えて言っていました。仲間を信じることで、自分自身に知識をつけることでチームの一員になれるように、活動していきたいなと思います。この約2カ月間で学んだ知識・技術を忘れることなく活かしたいです。ありがとうございました。



後輩へのメッセージ

これから救急を学ぶことで、仕事の視野が広がると思います。勉強して知識を入れるのは自分自身の努力だと思います。この救急科では、勉強はもちろんですが、たくさんの仲間を作ってほしいと思います。仕事以外のこと、仕事のことたくさん悩むときがきます。一人に相談するのも一つですが、いろんな人の意見も取り入れられるとまた変わってくると思います。

救急科中は、一日一日を大切に過ごしてください。

修了しての感想

入校までは、救急科が内心、億劫でしたが、修了が近づくにつれ、救急が好きになっていました。

環境、教官、仲間にも恵まれ、有意義な学校生活を送ることができました。とても感謝しています。

所属に戻ってから、より知識・技術を深め、病態生理、根拠を身に付けるとともに、接遇にも務め、傷病者、市民に寄り添った活動に従事していきます。



後輩へのメッセージ

消防活動の仕事は、常に傷病者がつきもので、適切な観察、処置が行われないことにより、傷病者に不利益を被らせることのないように、勉学に励んでください。「あの講義をしっかりと聞いとけば良かった…」とならないように、一つ一つの講義を大切に受講してください。

併せて、傷病者・市民に優しい救急隊員、消防職員となって市民に還元していきましょう。

修了しての感想

私は今まで救急の知識や技術というのは消防職員として必要なことだということを感じながらも、なかなか詳しく勉強するということができませんでした。ですが、この救急科を通じて教官や講師の方々から、たくさんの知識、技術を学ぶとともに消防の先輩方の経験談なども教えていただき、大変勉強になりました。この救急科で学んだことを糧に今後も精進していきたいと思えます。

また、1ヵ月半という期間があつという間に感じられるほど、151期救急科で過ごした時間は楽しかったです。



後輩へのメッセージ

それぞれの人が救急に対しての知識や技術も様々で所属の違う人たちが集まり学ぶ、この救急科で不安を抱きながら入校する方もたくさんいると思えます。ですが、この救急科では、素晴らしい教官、講師の方々のもと学ぶことができます。

また、ここで出会う同期の仲間たちとの時間は皆さんにとってかけがえのない財産となるはずですが、救急科は一生に一度しか来ることにはできません。全力で楽しんでたくさんの失敗を経験して、実り多い救急科を過ごしてください。

救急科教育訓練の様子



基本訓練



喉頭展開訓練



搬送訓練



車外救出訓練



シミュレーション訓練（内因）



シミュレーション訓練（外因）